

一 なみは よせては かえす

白い レースを ひろげて

すなはまに そっと 手を のばし

名前を 書いては 消していく

二 どこから 来たの と たずねても

なみは こたえず ただ ひかる

遠い 水平線の おこう

見たことのない 国の 話を

つぶやくように はこんで くる

三 よせて かえして くりかえし

なみは けっして あきらめない

かたい 岩を すこしずつ

まるい 小石に かえてゆく

四 きみも いつか と なみは 言う

あせらなくて いいと 言う

よせて かえす その リズムで

ぼくの せなかを おしてくる



School Stock 『なみ』 ナニ

(1) 第一連の「名前を 書いては 消していく」とは、なみの、どのような様子を表した表現ですか。書きましょう。

(2) この詩では、なみが、人のように話したり、行動したりする表現が多く使われています。このような表現の工夫を、何といますか。漢字三字で書きましょう。

(3) 第三連で、なみは「かたい 岩を……まるい 小石に かえてゆく」とえがかれています。この部分から読み取れる、なみの様子として、最も適切なものを一つ選びましょう。

ア 力が弱く、すぐにあきらめてしまう様子
イ 急に、大きな力を出して岩をこわす様子
ウ 同じことをくりかえし、休まず続ける様子
エ 岩をこわすのを、こわがっている様子

(4) 第四連で、なみは「あせらなくて いい」と言っています。この言葉は、第三連の、なみのどのような様子と重なっていますか。詩の言葉を使って書きましょう。

(5) この詩の作者は、「なみ」に、どのような思いを重ねていると考えますか。「ぼくの せなかを おしてくる」という表現をふまえて、あなたの考えを書きましょう。

例えば

「あせらず続ければ、いつか実る。なみが、そう自分をはげましてくれている、という思い。」

「こつこつ前へ進む自分の背中を、なみがそっとおしてくる、という気持ち。」

一 なみは よせては かえす

白い レースを ひろげて

すなはまに そっと 手を のばし

名前を 書いては 消していく

二 どこから 来たの と たずねても

なみは こたえず ただ ひかる

遠い 水平線の おこう

見たことのない 国の 話を

つぶやくように はこんで くる

三 よせて かえして くりかえし

なみは けっして あきらめない

かたい 岩を すこしずつ

まるい 小石に かえてゆく

四 きみも いつか と なみは 言う

あせらなくて いいと 言う

よせて かえす その リズムで

ぼくの せなかを おしてくる



School Stock 『なみ』 十一

(1) 第一連の「名前を 書いては 消していく」とは、なみの、どのような様子を表した表現ですか。書きましょう。

(例) よせてきたなみが、すなはまの上をおおい、また引いていくことで、書いたあとが消えていく様子。

(2) この詩では、なみが、人のように話したり、行動したりする表現が多く使われています。このような表現の工夫を、何といますか。漢字三字で書きましょう。

擬人法

(3) 第三連で、なみは「かたい 岩を……まるい 小石に かえてゆく」とえがかれています。この部分から読み取れる、なみの様子として、最も適切なものを一つ選びましょう。

ア 力が弱く、すぐにあきらめてしまう様子

イ 急に、大きな力を出して岩をこわす様子

ウ 同じことをくりかえし、休まず続ける様子

エ 岩をこわすのを、こわがっている様子

(4) 第四連で、なみは「あせらなくて いい」と言っています。この言葉は、第三連の、なみのどのような様子と重なっていますか。詩の言葉を使って書きましょう。

(例) かたい岩を、すこしずつ、まるい小石にかえてゆく(という、あせらず続ける様子)。

(5) この詩の作者は、「なみ」に、どのような思いを重ねていると考えますか。「ぼくの せなかを おしてくる」という表現をふまえて、あなたの考えを書きましょう。

(例) あせらず、こつこつと続けていけば、いつか大きなことをなしとげられる。作者は、そうやって前へ進む自分を、なみがはげましてくれている、と感じている。

例えば

「あせらず続ければ、いつか実る。なみが、そう自分をはげましてくれている、という思い。」

「こつこつ前へ進む自分の背中を、なみがそっとおしてくる、という気持ち。」

解答・解説 なみ（6年・詩）

問1 （例）よせてきたなみが、すなはまの上をおおい、また引いていくことで、書いたあとが消えていく様子。

「そっと 手を のばし」「書いては 消していく」から、なみが、よせては引く動きを、人が字を書いて消すようにえがいた表現だと分かります。

問2 擬人法

人ではないものを、人の動作や気持ちで表す工夫を「擬人法（ぎじんほう）」といいます。

問3 ウ

「よせて かえして くりかえし」「けっして あきらめない」「すこしずつ」から、休まず同じことを続ける様子が読み取れます。

問4 （例）かたい岩を、すこしずつ、まるい小石にかえてゆく（という、あせらず続ける様子）。

第三連の「すこしずつ」「くりかえし」続ける様子が、「あせらなくていい」という言葉と重なっています。

問5 （例）あせらず、こつこつと続けていけば、いつか大きなことをなしとげられる。作者は、そうやって前へ進む自分を、なみがはげましてくれている、と感じている。

「あせらなくて いい」「せなかを おしてくる」から、はげまし・おうえんの思いを重ねていると読み取れれば、よい読みです。